中村理事長の左隣からパレスチナ聖地外国人観光客受入協会サミ・アブ・ダイエ会長、ヨルダン観光産業連盟サミール・ダービ会長、イスラエルG2トラベルのエラン・ベンケルCEOの各氏

要人往来

昨年念願の1000万人を達成した訪日外客は、今年に入っても1、2月の累計が30.5%増を記録して絶好調。低空飛行を続けるアウトバウンドもそろそろエンジン全開といきたいものです。

リカルド・アリコック駐日ジャマイカ大使

ナナエ・シンゲオ・パラオ政府観光局局長（左）

ウドッド・パーヴェル・ヤクーツク航空副社長（中央）

ポジティブなイメージをアピール

中東3カ国代表　3月25日（火）

中東3カ国（ヨルダン・パレスチナ・イスラエル）の旅行業界代表がJATA本部を訪問し、「ツーリズムEXPOジャパンへの出展やセミナーの開催などBtoBも通じてポジティブなイメージをアピールし日本人旅行者の増加につなげたい」と表明。JATA側は「日本から中東へはパッケージツアーの旅行者が多く、旅行会社に理解を深めてもらうことも必要です。ファムツアーやセミナーなどのプロモーション活動により、2～3カ国を周遊するツアー造成を働きかけることが効果的です」と応じました。

ネイディーン・レオン・ゲレロ・グアム政府観光局マーケティング部長（左から3人目）と中村理事長の右隣がミス・グアムのリサ・マリー・パチカスキーさん

日本人旅行者数を最盛期の水準へ

ジャマイカ　4月4日（金）

リカルド・アリコック駐日ジャマイカ大使

菊間JATA会長を訪問し、日・ジャマイカ国交樹立50周年に当たる今年度の観光プロモーションなどについて懇談しました。アリコック大使は「1990年代には2万人以上を数えた日本人旅行者が現在は2000人前後にとどまっており、増加に向けてJATAのアドバイスをいただきたい」と要請。菊間会長は「若者のリゾート地としての印象が強いため、シニア層も視野に入れた別の角度からのアプローチも進め、船ではなく航空機を利用したツアーを目指せば、滞在型需要の増加が期待できます」と応えました。

新潟への定期便就航に向けて準備

ロシア　4月9日（水）

ウドッド・パーヴェル・ヤクーツク航空副社長

中村JATA理事長を訪問し、「極東／日本間の観光フライトに注力しており、成田便に加えて地方路線の確立も目指し、今期、チャーター便を運航する新潟への定期便就航を準備している」と説明。中村理事長は「地方空港活性化のためにもチャーター便運航に力を入れていることに感謝します。ロシアからの訪日旅行者が増加することも見込まれ、定期便の実現に向けて積極的に活動していただきたい」と期待を示しました。

旅行者数トップの日本で積極プロモーション

パラオ　4月8日（火）

ナナエ・シンゲオ・パラオ政府観光局局長

中村JATA理事長を訪問し、JATA本部で開催された「パラオセミナー・ワークショップ東京」に約100人の参加があったことに謝意を伝え、「2012年に『南ラグーンとロックアイランド』がミクロネシアで初めて文化と自然の複合遺産として世界遺産に登録されたことで人気が高まっている」と指摘。「パラオを訪れる旅行者数でトップの日本市場でさらに積極的なプロモーション活動を行いたい」考えを示したのに対し、中村理事長は「ダイビング旅行者にとって一番大切な部分となる安心安全の面で、今後に向けてしっかり対策をとられているのは素晴らしいです。観光客増加のため協力していきたい」と応じました。

日本からの修学旅行が147校まで増加

グアム　4月11日（金）

ネイディーン・レオン・ゲレロ・グアム政府観光局マーケティング部長

ミス・グアムのリサ・マリー・パチカスキーさんを伴ってJATA本部を訪問し、「日本の9都市から直行便が就航しているグアムでは、近年、1000人規模のインセンティブ団体などが増えると同時に、日本からの修学旅行も147校を数えているが、個人旅行者が伸び悩んでおり、新しいグアムの魅力をアピールしてプロモーションを行っている」と説明。中村JATA理事長は「英語が共通語のグアムは修学旅行のデスティネーションとしても最適で、地方からのアクセスも良いことからJATAとしても今後さらに日本人旅行者が増えるよう協力したい」と応えました。